

問1 その画期的な発明は、世界中の（ ）を集めた。（ ）に入る言葉はどれですか？

1. 耳目 2. 手足 3. 口元 4. 鼻筋

問2 「腕に覚えがある」の意味はどれですか？

1. 過去の経験をよく記憶している 2. 体の一部に傷跡が残っている 3. 手先が器用で何でも作れる 4. 自分の技術や能力に自信がある

問3 「頭を丸める」の意味はどれですか？

1. 考えを改め、新しい計画を立て直す 2. 出家して僧になる、または反省して丸坊主にする 3. 髪を短くして身なりを整える 4. 頭を下げて相手に深くお詫びをする

問4 「口を添える」を慣用句の意味で正しく使っている文はどれですか？

1. 料理に口を添えて、味を調えることにした。 2. 口を添えて、手紙の封をしっかりと閉じた。 3. 彼が採用されるよう、部長に口を添えておいた。 4. 会話の途中で口を添えて、相手を怒らせてしまった。

問5 人の意見の（ ）馬に乗るようなことはやめよう。（ ）に入る言葉はどれですか？

1. 背 2. 尻 3. 首 4. 腹

問6 「筆が立つ」の意味はどれですか？

1. 文章を書く能力が優れている 2. 筆を立てて置くことができる 3. 文章を書くのが非常に遅い 4. 書道の腕前が非常に高い

問7 「頭が上がらない」の意味はどれですか？

1. 相手の権力が強すぎて、意見を全く言えないこと 2. 相手に対して深い尊敬の念を抱いて従うこと 3. 相手の能力が自分よりはるかに優れていると認めること 4. 相手に対して引け目や恩義があり、対等に振る舞えないこと

問8 「頭打ちになる」の意味はどれですか？

1. 高い目標を掲げすぎて、現実との差に苦しむ 2. 激しい議論の末に、ようやく結論にたどり着く 3. 物事の成長や上昇が限界に達し、それ以上伸びなくなる 4. 計画が途中で失敗し、最初からやり直すことになる

問9 「腕自慢」を慣用句の意味で正しく使っている文はどれですか？

1. 腕自慢の料理人たちが、とっておきのレシピを披露し合った。 2. 彼女は腕自慢の持ち主で、いつも高価な時計を身につけている。 3. 腕自慢の私は、毎日欠かさず筋トレをして筋肉を鍛えた。 4. 彼は腕自慢なので、いつも力仕事ばかりを任されている。

問10 「堂に入る」の意味はどれですか？

1. 組織や団体の内部に入り込み、実権を握る 2. 学問や技芸などが十分に上達し、優れている 3. 立派な建物の中に招き入れられる 4. 物事の核心に触れ、本質を見抜く

問11 慣用句「芽が出る」の意味はどれですか？

1. 隠していた秘密が明るみに出ること 2. 新しいアイデアが次々と生まれること 3. 新しい計画がようやく動き出すこと 4. 才能が認められ、成功の兆しが見えること

問12 「顔がきく」を慣用句の意味で正しく使っている文はどれですか？

1. 顔がきく人は、いつも大きな声で話す。 2. 鏡を見て顔がきくかどうかを確認した。 3. 彼は顔がきくので、いつも笑顔をたやさない。 4. 常連客である彼は、この店で顔がきく。

問13 「袖の下」の意味はどれですか？

1. 自分の利益のために、こっそり渡すわいろ 2. 着物の袖の下にある隠しポケット 3. 相手を威圧するために袖をまくり上げること 4. 袖の縫い目から出ている糸の端

問14 「先手を打つ」の意味はどれですか？

1. 相手よりも早く目的地に到着するように努力する 2. 物事の順序を間違えないように計画を立てる 3. 相手が行動を起こす前に、あらかじめ対策を講じる 4. 議論の場で最初に自分の意見を述べて主導権を握る

問15 「腑に落ちない」を慣用句の意味で正しく使っている文はどれですか？

1. 階段から落ちてしまい、腑に落ちない思いをした。 2. 彼の言い分には矛盾が多く、どうも腑に落ちない。 3. 腑に落ちない料理を食べ、お腹を壊してしまった。 4. 腑に落ちないように、慎重に荷物を運んだ。

問16 大勢の前で失敗し、身の（ ）所がない。（ ）に入る言葉はどれですか？

1. 隠し 2. 置き 3. 逃げ 4. 休め



慣用句(上級)プリント14 答え合わせ・解説

問1 答え 1 耳目

「耳目を集める」の「耳目」の部分が入ります。意味は「多くの人の関心や注目を集める」です。

問2 答え 4 自分の技術や能力に自信がある

「腕に覚えがある」は「自分の技術や能力に自信がある」という意味です。

問3 答え 2 出家して僧になる、または反省して丸坊主にする

「頭を丸める」は、髪を剃って僧になる（出家する）ことや、反省の気持ちを示すために髪を丸坊主にするという意味の慣用句です。

問4 答え 3 彼が採用されるよう、部長に口を添えておいた。

「口を添える」の正しい使い方は「彼が採用されるよう、部長に口を添えておいた。」です。意味は「他人の話に言葉を付け加えて、うまくいくように取りなす」です。

問5 答え 2 尻

「尻馬に乗る」の「尻」が入ります。意味は、他人の言動に便乗して、自分も深く考えずに同じような振る舞いをすることです。

問6 答え 1 文章を書く能力が優れている

「筆が立つ」は「文章を書く能力が優れている」という意味です。

問7 答え 4 相手に対して引け目や恩義があり、対等に振る舞えないこと

「頭が上がらない」は「相手に対して引け目や恩義があり、対等に振る舞えないこと」という意味です。

問8 答え 3 物事の成長や上昇が限界に達し、それ以上伸びなくなる

「頭打ちになる」は「物事の成長や上昇が限界に達し、それ以上伸びなくなる」という意味です。

問9 答え 1 腕自慢の料理人たちが、とっておきのレシピを披露し合った。

「腕自慢」は「自分の技術や手腕に自信を持ち、それを誇る（またはその人）」という意味です。腕力（筋肉や力仕事）を誇る「力自慢」や、身につける「腕時計」の意味ではないことに注意しましょう。

問10 答え 2 学問や技芸などが十分に上達し、優れている

「堂に入る」は「学問や技芸などが十分に上達し、優れている」という意味です。

問11 答え 4 才能が認められ、成功の兆しが見えること

「芽が出る」は、長い間の努力や下積みが実り、才能が認められて成功の兆しが見えることを意味する慣用句です。

問12 答え 4 常連客である彼は、この店で顔がきく。

「顔がきく」の正しい使い方は「常連客である彼は、この店で顔がきく。」です。意味は「顔見知りが多く、特別な扱いを受けられる」です。

問13 答え 1 自分の利益のために、こっそり渡すわいろ

「袖の下」は「自分の利益のために、こっそり渡すわいろ」という意味です。

問14 答え 3 相手が行動を起こす前に、あらかじめ対策を講じる

「先手を打つ」は「相手が行動を起こす前に、あらかじめ対策を講じる」という意味です。

問15 答え 2 彼の言い分には矛盾が多く、どうも腑に落ちない。

「腑に落ちない」の正しい使い方は「彼の言い分には矛盾が多く、どうも腑に落ちない。」です。意味は「納得がいかず、合点がいかない」です。

問16 答え 2 置き

「身の置き所がない」の「置き」の部分が入ります。意味は「恥ずかしさや居心地の悪さで困る」です。